

# 知事記者会見の概要

日 時：令和6年6月6日(木) 10:00～10:38

場 所：502会議室

出席記者：16名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) タイ王国でのトップセールスの実施結果について
- (2) 欧州でのトップセールスの実施について

### 代表質問

- (1) J R 米坂線の復旧について

### フリー質問

- (1) さくらんぼに係る知事の思いについて
- (2) やまがた紅王について
- (3) 代表質問に関連して
- (4) J R 津軽線について
- (5) 国民スポーツ大会について
- (6) 令和5年出生数、合計特殊出生率等の公表に伴う所感について
- (7) 令和6年産さくらんぼの生産について
- (8) 東京都の高校等授業料実質無償化について

<幹事社：河北・共同・TUY>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。まずはですね、ツキノワグマでございます。今年の1月から5月までのクマの目撃件数、これが累計で71件となりました。これは過去5年間で2番目に多い件数となっております。

5月28日には、市街地における1週間あたりの目撃件数が5件となり、基準に達したことから、「クマ出没注意報」を発令いたしました。

例年、これから目撃件数が増えてまいりますので、県民の皆様には、山に入る際は音が出るものを携行していただくようお願いいたします。また、市街地でクマを目撃した場合は、まず屋内に避難して、安全が確認されるまでは外に出ない、そして市町村または警察署に通報するなど、お一人おひとりが身を守る行動をとっていただき、クマの被害にあわないよう、ご注意くださいと思います。

次はさくらんぼであります。「やまがた紅王」がいよいよ色づいてきました。大きさは500円硬貨に近づいてきました。

(補足：知事が、現在のやまがた紅王の生育状況を写した写真フリップを提示)

このぐらい、今なりました。500円玉に近づいてきたということであります。

雨よけ栽培の「やまがた紅王」は、来週後半くらいから収穫が本格化すると聞いておりますので、皆さん、楽しみにしてください。

また、今日は6月6日です。「山形さくらんぼの日」であります。本日の午後3時から、やまがたフルーツ150周年記念事業のスタートを飾る「さくらんぼイブニング」を開催いたします。私も参加しますので、皆様もぜひ、やまぎん県民ホールイベント広場に足をお運びいただければと思います。

## ☆発表事項

それからここで、トップセールスについて2点発表させていただきます。まず1点目ですけれども、先月の29日から今月1日までの4日間、タイ王国を訪問し、トップセールスを行ってまいりました。

今回は、県としてタイ王国では初めてとなる農産物のトップセールスを実施し、現地の農産物輸入企業や地元インフルエンサー等に対し、デビュー2年目を迎える「やまがた紅王」をはじめ、県産米の「つや姫」や「総称山形牛」など山形ブランドを強力に発信してまいりました。

「やまがた紅王」などのプロモーションでは、さくらんぼ等県産農産物の試食を行い、会場の皆様から大変ご好評をいただきました。

また、国際食品総合見本市「タイフェックス アヌーガ アジアTHAIFEX - Anuga Asia 2024」では、東北・新潟7県連携のブースにおきまして、私自らつや姫の試食品配布を行ってまいりました。

さらに、今回の訪問では、前駐日タイ王国特命全権大使のシントン・ラーピセートパン氏をはじめ、本県ゆかりの皆さまに「やまがた特命観光・つや姫大使」を委嘱して、山形の魅力発信に強力なお力添えをお願いしてまいりました。

また、タイ国政府観光庁を訪問し相互交流の拡大について意見交換するとともに、現地の旅行会社に対し本県へのインバウンド誘客促進に向けた働きかけを行い、本県への旅行商品造成に向けて前向きな発言をいただいたところです。

県としましては、このたびのタイ訪問を契機に、山形ブランドの魅力をさらに発信し、県産農産物の輸出拡大や観光誘客の促進に取り組んでまいります。

2点目ですけれども、6月9日から6月14日までの6日間、欧州のイタリア共和国とフランス共和国を訪問し、トップセールスを実施してまいります。

今回の訪問は、県産日本酒の認知度向上や販路開拓・販売拡大を図るため「日本一美酒県やまがた」をPRするとともに、本県への観光誘客の拡大を図るため、県産酒を生み出す豊かな自然や風土、さらには、本県が誇る精神文化や食・温泉など、山形の魅力を伝えるというものであります。

2015年のミラノ国際博覧会への出展を契機に県産日本酒の輸出額が着実に増えているイタリア共和国や、欧州の中でも有数の日本酒の輸出先ではありながらも、山形県産の日本酒の輸出額が少ないフランス共和国において、現地の日本酒輸入業者や飲食店関係者等を対象とした県産日本酒の現地プロモーションを実施し、観光面も含めた本県の魅力を合わせてお伝えしてまいりたいと考えております。

このたびのトップセールスにより、県産日本酒の輸出拡大や観光誘客に結び付けてまいります。私からは以上です。

#### ☆代表質問

##### 記者

テレビユー山形の矢野でございます。JR米坂線の復旧についてお伺いいたします。先月29日に開かれた復旧検討会議で、JRは利用状況の試算の結果、JR単独運営での復旧は難しいとした上で4つの運営パターンを示しました。吉村知事は4つの案のうちどの案が良いと思われるでしょうか。受けとめをお伺いします。

また、JRとの認識に乖離があると思われる場合、どのように話し合いを進めていきたいか、今後の対応についてお答えください。

##### 知事

5月29日に、第3回JR米坂線復旧検討会議が開催されました。本県からはみらい企画創造部長が出席して、内容については報告を受けております。

県ではこれまで「JR東日本による米坂線の早期復旧」を求めるとともに、復旧後を見据えて「沿線地域が一致団結して利用拡大に取り組んでいく」と申し上げてきたところです。

今回の第3回会議では、JR東日本から、復旧後の米坂線の利用見込みを試算した結果が示され、その結果を踏まえると「JRが運営することを前提とした復旧は難しい」との説明がありました。

その上で、復旧後の運営パターンとして、これまでJR東日本がとってきた事例から、1つに

はJRの運営、2つには上下分離、3つには地域が運営する鉄道、そして4つ目がバス転換、この4つを示して、今後議論していきたいとの考えが示されました。

この試算結果につきましては、前回の第2回会議で本県を含む沿線自治体が生じたデータを基に計算したとのことですが、JR東日本による一定の仮定に基づくものであり、条件設定の仕方によって結果も変わってくると思っております。

沿線地域における利用拡大の取組みによって、試算結果を上回ることはあると考えておりますので、今後沿線自治体とも利用拡大や復旧に向けた機運醸成にしっかり取り組んでいく必要があると考えております。

今回、JR東日本から初めて、JR運営も含めた4つのパターンが示されましたが、県としましては、基本的にはJR東日本による復旧と運営を求めていくという考えであります。災害で被災したものでありますので、災害復旧ということだというふうに思っております。会議では、新潟県や沿線市町村も同じ意見だったと聞いております。

米坂線は、地域住民の日々の暮らしを支える、なくてはならない交通機関であり、本県と新潟県とをつなぐ横軸の鉄道ネットワークとして、全国的な鉄道ネットワークの一翼を担う重要な公共交通機関であります。

そうした観点に立ちながら、昨日行いました政府の施策等に対する提案活動におきましても、私から直接、斉藤国土交通大臣に対して、「政府による復旧費用への補助率嵩上げなど、復旧に向けた財政支援を拡充する」よう要望してきたところであります。

今後も、復旧検討会議の場も含めて、JR東日本、新潟県や沿線市町村と話し合いを重ねることで、早期復旧にしっかり取り組んでまいりたいと考えております。いずれにしましても、JR側の考えが示されたということでもありますので、今後、議論を深めてまいりたいと考えております。

記者

今、国土交通省のお話がありましたが、JRとして、86億円あまりの復旧工事の費用負担など、そういったところをいろいろ詰めていかなければいけない部分もあるかと思いますが、そのあたりもJRとどうやって進めていきたいかなど、お考えございますか。

知事

そうですね。4つのパターンが示されたということであって、負担ということについてはやっぱり現時点で決まっていることはございませんので、これからの話し合いということになると思っております。やはり沿線、市・町、新潟県側に村もありますので、沿線市町村で、新潟県、山形県、一緒になってですね、やっぱりそういったことも含めながら、今後、検討していかなければならないというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

## ☆フリー質問

記者

NHKの岡野と申します。よろしくお願ひいたします。

さくらんぼについてお尋ねしたいんですけども、本日は知事も（さくらんぼの）ブローチやジャケットをお召しになってきてらっしゃいますが、今年は令和6年ということで6が3つ並んでいてですね、本当にさくらんぼの日と言うか、「まさに！」ということなんですけれども。

まず、知事のさくらんぼに対する思いと伺いますか、改めてお聞かせいただきたいのと、あと「（やまがた）紅王」の、先ほど写真もご紹介ありましたが、去年から本格的に販売が始まったということで、先日タイでも働きかけをされたんですが、日本はもとより海外に対して、今年も含めて、今後どのようにPRしていきたいかっていう意気込みと、あと、もし、こういったこともしたいんだというアイデア等があれば、聞かせていただきたいなど。

知事

はい。そうですね。さくらんぼというのはやっぱり山形県の代名詞みたいになっておりまして、全国の方々にも知られている。さくらんぼと言えば山形県、山形県と言えばさくらんぼ、というふうに、本当に手話でもこれで「山形」というふうになっていると聞いてますので（補足：知事が、「山形」を表す手話〔指でさくらんぼの形を表現する〕の動作を示す。）、本当に山形県の代名詞みたいなものだな、と。非常に山形県の強みであり、また、誇りでもあるというふうに思っています。

ここまでさくらんぼのイメージを定着するというふうになったのは、やはり先人たちの本当に150年近くにわたる挑戦の歴史があった、それに基づいてですね、本当に今日のさくらんぼの存在感があるかと思っておりますので、歴史と伺いますか、山形県の食文化とも言えますし、伝統とも言えますし、本当にいろんな意味で山形県の強みだなと思っております。これまで本当に生産し続けて、また、品質改良ということに注力してくださった方々に心から、私からも感謝を申し上げたいというふうに思っています。

県民の皆さんにももっともっと山形県のさくらんぼというのはものすごい強みなんだということをお知らせしたいというふうに思っています。そこは、さくらんぼに対する思いというのは、そういうふうに「さくらんぼ県」だということに尽きるかと思っておりますけれども。

輸出という点ではですね、非常に、他の品種もあるんですけども、この「やまがた紅王」が非常に粒が大きいだけでなく、日持ちも良いということは知られているんですけども、輸出はどうかということ、昨年、台湾に持って行ってみましましたら、大丈夫でした。今回、タイに持って行ってみたんですけども、全く問題ないということが確認できました。これは将来輸出に向けてしっかり取り組んでいける品種だなと思ったところであります。

いかんせんまだ生産量が昨年20トンに満たなかったわけだし、今年は40トンを目指しているということでもありますけれども、本当に1万3千トンぐらいのうちの40トンですから、まだまだ少ない生産量であります。

県民の皆さんもですね、まだまだ、味わっていない方もいらっしゃると思いますし、全国的にもまだ流通していないというものであります。

ただ、インパクトはありますので、「佐藤錦」、そして「紅秀峰」、この「やまがた紅王」という3つの品種ですね、大いにブランドとして確立していきたい。もっとも、代表選手として「王」が付くわけですからね、「紅王」ですね。本当にトップブランドに育てていければというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

追加でなんですけれど、去年は台湾、今年はタイということだったんですが、やっぱりアジアを中心に今後 PR というか展開していくというお考えなんですか。

知事

そうですね。アジアということに限ってはいないと思います。世界中どこまで持っていかれるかというのがまだちょっと分かっておりませんが、飛行機が世界中に飛んでいる時代ですから、本当に反対側のブラジルまで持っていけるんじゃないか、とかですね、ヨーロッパにも持っていけるか、とか、あとはドバイ辺り、フルーツが非常に喜ばれるというふうに聞いていますので、あの辺りは私、尾花沢のスイカが良いんじゃないかな、と思ってますけども、山形県のフルーツ、いろいろありますけど、可能性というものはやっぱり県内、国内の市場が縮小していく中で、どうやって海外にですね、輸出していくということをやはりしっかりと組みながら、県内のフルーツ生産者の皆さんとですね、将来というものを一緒に考えていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

あと、これちょっと技術的な話になるかもしれないんですが、「紅王」は他の品種と比べてどれくらい日持ちが長いとかっていうのは言えたりするんでしょうか。

知事

そこまでの具体的なデータまでは、私はちょっと持ち合わせていないので、はい。園芸（農業）研究所なんですかね。それはどうですか、農林（水産）部おりますけども。

農林水産部次長

農林水産部の高橋でございます。「紅王」につきましては、非常に丈夫性が優れているというようなことでございますけれども、現在も冷蔵した場合ですとですね、1か月以上が十分、品質状態で持つということもございますし、あと常温で輸送した場合でも、一週間程度の日持ちということで、「佐藤錦」、「紅秀峰」よりも日持ちが良いということになってございます。今後ともですね、その辺については詳細に調査をしていくということになるかと思っております。

知事

よろしいでしょうか。

記者

ありがとうございました。以上です

記者

ありがとうございます。山形新聞の鈴木です。

米坂線について1点、お聞かせください。先ほど知事のお話の中で、試算について、条件設定によっては結果が変わってくるというお話がありました。この段階でJR側が、JRの運営を前提とした復旧は難しいという発言をされたことについての知事の受け止めに教えてください。

知事

そうですね、JRがそういう考え、4つのパターンを示しながらもそういったことをおっしゃったということでもありますけれども、復旧、運営、どちらも合わせてですか。

記者

まず、単独での運営が難しいということが最初にもう前提としてあるわけですが、その部分について、それがあっての4つのパターンだと思うので、そこについての、そういう発言をされたということについてのコメントをいただきたい。

知事

正直申し上げて、やっぱり被災して運休になっているので、復旧が最初かなと私は思いましたし、国交大臣が視察された時も、まず復旧とおっしゃいましたね。そこは私は、そこが先に来るとは思うんですけどもね。

でも、JRさんは運営のほうもおいて、一緒に、同時に言っておられるということでもあります。民間会社だからというようなことで、経営もやっていかなければならないというところはですね、一定程度理解はするのですけれども、最初から運営というふうにおっしゃっているのもね、ちょっとそういう、経営ということも大事なんだけど、私の立場から見ると、やはり地域の問題、地方創生ということになるかと思えますけど、地域にとってのやはり将来性ということもありますし、あと観光ということもありますし、それから災害が起きた時のですね、あそこの横軸ですから、災害が起きた時もリダンダンシーというようなことで、一定程度有効、役立ったということはあると思っていますので、一概にその経営、運営という視点だけで進めていくというのはいかがなものかなというのは正直なところでは。

ですから政府にも公共交通機関なのということも申し上げて、横軸として大事な全国のネットワークの一つでありますし、今後いろいろな事態に遭遇した時に必要な鉄道であるという

ことは申し上げています。

だから、民間会社だというふうにおっしゃっているのだけれども、公共交通機関だという視点をですね、やはりもっとしっかり政府もJRも持っていただきたい。JRについては、やはりそういう人口減少地域のところだけじゃなくて、首都圏というようなところも運営されているわけだから、全体的に見ていただきたいという気持ちはあります。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の奥島です。よろしく申し上げます。

同じく米坂線に関連してお伺いしますが、同じ時期に被災した青森の津軽線は、自動車交通への転換というのが、この間、方向性として決まりました。同時期の被災ということで重なる部分もあると思うのですが、これについての受け止めにまずお願いします。

知事

その津軽線についての詳細な情報を私はちょっと持ち合わせていないのですが、やはり地域の事情というのがね、どういうものであったのかなというふうに、今お聞きをして思っています。

わが県の米坂線の場合はですね、山形県と新潟県の2つの県をまたぐ横軸であるというのと、たくさん的高校生が利用しているという大事な路線だなというふうに私は思っていますし、地元の人たちもその沿線自治体はもちろんのこと、置賜地方全体にとって大事な路線だというふうに置賜管内の首長さんたち全員がおっしゃっていました。共通認識を確認しましたので、津軽はどういう事情だったのかちょっと持ち合わせておりませんが、米坂線については私の認識はそういう認識であります。

記者

あと、この間の会議で、被災前同様の運営というのがJRとして難しいという話が出て、上下分離だったり、その地域での運営だったり、どのみち铁路の維持には復旧費だけでなくその運営に関しても地域の負担がある程度必要だというメッセージだったかなというふうに思います。

この運営についても自治体が負担するということについては、知事はどのように思われますか。

知事

そうですね、運営を負担していくということはかなりの財政が必要になります。そして二つの県があって、沿線自治体、市町村がありますので、それぞれのケースの場合どういうふうになるというようなこともしっかり調べてと言いますか、データというものを使いながら皆さん

と具体的な議論を進めて、深めていくというような、これから作業段階になるかと思しますので、やっぱり沿線自治体のお考え、議論を深めていくということに今は尽きると思えます。これだというようなことについては申し上げられない、現時点では。

ただ、私も新潟県知事も、基本的にはJRによる復旧・運営が望ましいということには変わりはないということであります。

記者

山形放送の穂積と申します。

昨日ですね、国スポについてですね、今後検討する、有識者会議が設置されることが決まったわけですが、改めてそのことについて知事としてどう受け止めていらっしゃるのか、そして改めてその国スポについて知事のお考えというのをぜひお願いします。

知事

はい。日本スポーツ協会を中心にですね、議論されていると思えますけども、私、やっぱりスポーツにはすごい力があると思っております、また、子どもたち、若者はもちろん、本当にスポーツ好きな方がたくさんいらっしゃるんですね、そういう全国的な大会というのはですね、非常にみんな楽しみにしているし、張り合いが出て、一生懸命それに向けて切磋琢磨し、精進するということがありますので、スポーツは非常に魅力があるというふうに思っています。

ですから、できれば毎年開催すると。でも何年に1回ということが、4年に1回とかですね、そういうことが望ましいという方もいらっしゃいますけども、そうするとなかなか、オリンピックがそうなのでですけども、そういうやり方もあるかもしれませんが、やっぱり何年生の子は出られて何年生の子は出られないとか、いろんなことがまた出てくると思えますので、私の考えですよ、これは、やっぱり毎年開催したほうが、私はスポーツを目指す、精進しているアスリートとかですね、将来国際的なひのき舞台に立ちたいとか、いろんな子どもたちがいると思えますので、毎年開催するのが望ましいのではないかなというのが私の考えであります。

ただ、財政的には本当に大変なところがありますので、そこをどうやってね、クリアしているのかということかなと思っています。だから、1つの県でやるのか、あとブロックでやるのか、2県で一緒にやるのかとかですね、いろんな方法があると思えますし、あと負担の方法ですよ。都道府県だけでは、やはり地方にとっては大変重い負担だなというふうには思っていますので、負担のところをやはり、もっともっとそのスポーツ協会、また政府というところでもっともっとその負担を考えていただくといいのではないかなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。もう1問いいですか。

すいません、出生率のデータが、最新版が公開されたと思うのですが、県内はまた過去最低を更新してしまいました。それについての受け止めと、あと、今後への対策、お考えになっていることがあれば教えてください。

知事

はい。昨日公表された令和5年人口動態統計によりますと、全国の出生数は72万7,277人となりました。過去最低を更新したということであります。山形県につきましては5,151人、これは対前年比で523人の減でありますし、率にすれば9.2%の減となりました。

減少した背景ですけれども、若年女性の減少や未婚化・晩婚化による従来からの出生数の減少傾向に加えて、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したものの、コロナ禍において、婚姻数が減少していたことや5類移行までの間は妊娠・出産を控える動きがみられた、そういったことが影響しているものと考えております。

また、合計特殊出生率ですけれども、東京都が0.99となるなど、すべての都道府県で低下しました。全国平均の数値は1.26 から1.22（補足：1.22は誤り。正しくは1.20）へ低下しましたし、本県は1.22でありました。本県の全国順位は33位、東北・北海道では青森に次いで2位とはなったんですけれども、依然として憂慮すべき状況であるというふうに認識をしております。

このたびの結果について、改めて危機感を持って受け止めたところであります。政府では、昨日、児童手当の拡充などを盛り込んだ少子化対策関連法案が可決・成立したこともありますので、県としましては、人口減少の克服に向けて、引き続き、政府や市町村とも連携しながら、若者の県内定着・回帰や、結婚から妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援など、実効性ある施策に、なお一層しっかり取り組んでまいりたいというふうに考えております。

記者

ありがとうございました。

知事

失礼しました、（合計特殊出生率について）全国は1.20だったということで、本県が1.22だったと。全国を1.22と言ってしまったということです。

記者

すいません、最後にもう1つ、さくらんぼ絡みで大変恐縮なのですけれども、今年は双子果が多いということで、農家の皆さんも大変苦勞されているかと思うんですが、生産者の皆さんへのエールも含めてですね、どのように、これから収穫期を迎えるに当たってがんばっていただきたいとかですね、そのあたり、知事のコメントもいただければと思います。

知事

そうですね、本当に昨年の夏の酷暑の影響で双子果が多いとお聞きしたところであります。この双子果をですね、すでにもう摘果してしまったところも多いと聞いているのですけれども、ただ、本当にやっぱり双子果もある意味かわいらしいと私は思いますし、消費者の皆さんがですね、双子果も応援していただければなというふうに思っています。

双子果も出荷する一部のJAさんもあるというふうに聞いておりますけれども、本当にぜひそういった気象による影響というものもありましたということもご理解をいただきまして、双

子果も大変かわいらしいねということで消費者の皆さんからも応援していただいて、ぜひ山形県のさくらんぼ全般をですね、受け入れて、楽しんでいただければなというふうに思っています。

生産者の皆さん、本当に山形のさくらんぼはどれもおいしいですし、消費者の皆さんに喜ばれますので、本当に天候次第でいろいろ大変なのですけれども、暑くなったらなったらまた大変ではありますけれども、ぜひ全国の皆さんが楽しみにしていますので、ぜひお怪我のないように生産、収穫ですね、ぜひお願いしたいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございました。

記者

1問だけお聞かせください。

東京都知事選が近づく中、改めて、都が実施する都立高校などの授業料の実質無償化が注目されているかと思うのですが、地域での格差が生じることに対する懸念の声なども、ある県の知事からはお言葉があったりするようなのですが、率直に吉村知事は実質無償化の件、どうお感じですか。

知事

そうですね、山形県が東京都並みの財政力でありましたらば、私は即実施したと思います。

ですが、本当に全国、財政力はまったく違いますので、東京都は特に財政力は高いということが言えると思っています。

ただ、教育ですから、これは全国一律になるのが望ましいと思います。教育費の無償化に向けてですね、やはり政府がしっかりと全国一律無償化に向けて取り組んでいただきたいというふうに思っています。